

第2回 汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成25年10月9日(月) 13:00~17:20

場所:Jヴィレッジ(福島県双葉郡楢葉町)

2. メンバー

政府: (議長):赤羽 原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)
原子力災害現地対策本部: 熊谷副本部長
復興庁: 豊島次長(福島復興局)
文部科学省: 臼井放射性廃棄物企画室室長補佐
農林水産省: 藤田水産庁漁船漁業対策室長
経済産業省: 糟谷対策監、上田対策官
国土交通省: 渥美河川環境課長
環境省: 宮崎水環境課長
廃炉・汚染水対策現地事務所: 野田所長、木野参事官、常泉補佐

関係機関: JAEA: 片山福島技術本部技術副主幹、眞田副主幹

東京電力: 相澤副社長、石崎福島復興本社代表、新妻常務執行役、
高橋1F 安定化センター所長、岩城1F 安定化センター副所長

福島県(オブザーバー): 古市生活環境部次長、渡辺原子力安全課長

規制当局: 原子力規制庁:山本審議官、小坂地域統括管理官

3. 結果概要

(1)赤羽副大臣御挨拶

- この会議のモットーとして、「徹底した報告」、「徹底した議論」、「徹底した対策」の「3つの徹底」を合い言葉に頑張っていきたい。この会議での議論、結論については、汚染水処理対策委員会にも、現場からの報告としてフィードバックし、しっかりとした対策を取っていきたい。
- 1回目の会合で規制庁はじめいろいろなご指摘をいただいた事項について、今日の会議に至るまでに、廃炉・汚染水対策現地事務所と東京電力の現場の間で、様々な問題点の検討、原因究明、対処方針並びにスケジュールについて議論を重ねていただいたと承知している。今日はしっかりと時間をとって報告いただき、充実した議論をしていきたい。
- 最近、ヒューマンエラーによるトラブルが続いているため、どうしたら再発防止できるかということも議論のテーマに加えていきたいと考えている。

○汚染水問題は国内外から大きな懸念を示されている。正確な、しっかりとした対策を発信できる、現場に一番近い実のある会議としてよろしく願いたい。

(2) 緊急対策等の進捗状況の報告

○東京電力から、汚染水に関わる現場進捗状況として、H4エリアタンク漏えい箇所への調査状況、港湾内・外および地下水の分析結果、緊急対策の進捗及び計画、多核種除去設備の今後のスケジュール等について説明。

○続いて、東京電力から最近生じた一連の汚染水の漏えい等の事象を踏まえ、福島第一原子力発電所における汚染水の管理強化について説明。

○上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。

- ・地下水バイパスは非常に重要であるが、地下水バイパスによる汲み上げを始めると地下水の挙動が変わる。どのように挙動が変わるかを把握するため、追加的にボーリングでデータをとれるようにするとよい。

- ・H4タンクの漏えいは他のタンクでも同様の事象が起こりえる共通事象なのか、今後の対応を考える上でも重要であるためしっかりと精査すべき。

- ・雨水については、堰にたまったものをまず移すことのできるノッチタンクの容量を確保していただきたい。

- ・何を雨水とみるのかという基準が未だに固まっていない。これは早く固めていかないと、流せるものも流せない。早く決めないとまた混乱が起こってしまうため、関係者の協力をお願いしたい。

- ・ヒューマンエラーの問題については、手順書の作成や定型化を検討すべき。人員を増やすことは、かえってヒューマンエラーを増加させる要因になることにも留意し、設備を整え、できる限り機械化する等の対応が必要ではないか。

- ・現場内の信頼関係にも留意が必要。現場は疲弊しており、作業員の一体感と意識を高めるためにも、現場からの声をしっかりと聞き、コミュニケーションを取る必要がある。

(3) 第1回現地調整会議で提示された課題への対応の検討

○東京電力から、第1回現地調整会議で示された4分野(タンク対策、循環ライン信頼性向上対策、自然災害対策、漏えい防止対策)、18項目毎に、対応方針、対応に当たっての検討課題、スケジュール等について議論が行われた。主なコメントは以下のとおり。

- ・タンクの漏えいについては見逃さないことが重要。測定で高い値が出たところについては、要注意箇所、要監視箇所として、監視を重点化したらよいのではないか。

- ・コンクリート堰の貯留容量については、各エリアでタンクの数に違いがある中で、タンク1基分でいいのか。各エリアでリスクの発生する見通しを検討すべきではないか。

- ・タンクリプレイス計画については、地下水バイパス、陸側遮水壁やサブドレンの効果を精査しなければならない。最悪のケースも想定し、様々なケースについて考える必要がある。ケース分けをしたものを示していただきたい。
- ・コンクリート堰等の設置は期間短縮できないのか。台風の対策が冬にできあがるのでは意味がない。プレキャスト(工場で予め製造されたコンクリート製品)での対応も含め、更にスケジュールを前倒しできるような方法を検討していただきたい。
- ・タンクに直接落雷があった場合等のリスクは検討しているか。避雷針のカバー範囲を強化する等、敷地全体を考え、重要な箇所に対策をとると聞いていたが、どこまで対応がなされているかお示しいただきたい。
- ・堰内の溜まり水の移送ラインが長いことについてのリスクも考える必要があるのではないか。
- ・タービン建屋海側の調査孔No. 0-1の対策について、汚染源を特定しなければ対策も打てない。追加でボーリング調査するということが、しっかりと原因特定をした上で対策をとっていただきたい。
- ・HICの取扱作業時の閉運用は良いが、長期保管の際の漏えい対策、HIC自体の経年劣化等、中長期の課題として検討いただきたい。
- ・排水路Bラインの暗渠化については、工程短縮について検討いただきたい。

○上記のコメント等を踏まえ、今般の現地調整会議では、各課題について以下のとおり対応してくことが決められた。

①新たに実施することとした事項

- ・降雨等による斜面の滑りに伴う汚染水の移送配管の損傷への対応のため、移送ルート多重化(平成25年内工事完了)
 - ・HTI(雑个体廃棄物減容焼却)建屋、プロセス建屋、原子炉建屋、タービン建屋の地下滞留汚染水の浄化と汚染水量の低減のための新たな循環ラインの設置(平成26年度半ば運用開始)
 - ・タンク周辺の堰のかさ上げとともに、タンク堰の2重化(土堰堤の強化、土堰堤内のコンクリート打ち)(平成25年度内工事完了)
 - ・その他、水位計の設置(11月中)、 β 線測定装置の計画的な調達(年内)
- ※更なる前倒しが可能かどうか、引き続き検討することとされた。

②前回の調整会議で決定した事項でスケジュールが明確化された事項

- ・側溝 B ラインの暗渠化:平成25年内
- ・堰のかさ上げ:平成25年度内(26年3月)

・堰未設置場所の堰の設置：平成25年度内(26年3月)

※更なる前倒しが可能かどうか、引き続き検討することとされた。

③基本的な方向性は決定し今後詳細を精査していくこととした事項

・溶接型タンクの設置ペース(現在15基/月)を来年には2倍以上にする。今後のタンクの増設ペースを踏まえ、汚染水を貯蔵する容量を確保しつつ、既設のボルト締め型タンク、横置き鋼製タンクのリプレースするため、汚染水の量の前提条件や、どのタンクからリプレースするか等を詳細に検討した上で、いくつかのケースについて、最悪の場合にも対応できるよう早期にタンクリプレース計画を策定する。

④その他

・先週のH6タンクエリアのノッチタンクからの越流、B 南タンクからの越流等の事象を受け、現地調整会議において、現場での工程管理、品質管理などの問題点を洗い出し、対策を検討していくこととした。

(4)その他

○赤羽副大臣及び廃炉・汚染水対策現地事務所野田所長から以下報告があった。

・9月25日から相双漁協において試験操業が開始され、いわき市漁協においても震災後初めての試験操業が開始される予定。

・アカガレイの出荷制限について、本日付けで解除された。

(5)次回以降の日程

○次回は11月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。